

長期欠席（傾向）の児童生徒数（欠席日数の累計が10日以上の子どもの数）と内訳（令和2年7月末現在）

## 小学校

（人）

学 年	1	2	3	4	5	6	合 計
①病気	15	14	17	29	27	49	151
②経済的理由	0	0	0	0	0	0	0
③不登校	6	20	21	39	64	91	241
④その他	7	12	15	12	15	19	80
合 計	28	46	53	80	106	159	472

## 中学校

（人）

学 年	1	2	3	合 計
①病気	32	45	61	138
②経済的理由	0	0	0	0
③不登校	103	207	214	524
④その他	10	8	16	34
合 計	145	260	291	696

## 現状の分析

※本年度は新型コロナウイルス感染症対策による休業期間の長期化で、1学期の登校日数が縮小し、例年との直接的な比較は困難であり、過去の数値との比較検討は参考となる。

小学校	<p>○7月末時点の10日以上欠席者は472人で、過去（R1:490、H30 :433）との比較でも大きく増加していることはない。</p> <p>○うち病気を理由にした欠席者は、151人で全体の約32.0%であり、令和元年度末の病気による30日以上の欠席割合の22.9%と比較しても高い割合であった。</p> <p>⇒このことから、休業期間の長期化により、在宅生活のストレスや生活リズムの乱れ、体調管理の難しさ等から長期欠席者が多くなったこと、また、今般の感染症対策のため、微熱等の少しの体調不良でも欠席する場合も含まれていることが推測される。</p> <p>○その他の理由（中学校もほぼ同様）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の教育に関する考え方、無理解・無関心</li> <li>・外国での長期滞在、国内外の旅行など</li> </ul>
中学校	<p>○7月末時点の10日以上欠席者は696人で、過去（R1:682、H30 :745）との比較でも大きく増加していることはない。</p> <p>○うち病気を理由にした欠席者は、138人で全体の約20.0%であり、令和元年度末の病気による30日以上の欠席割合の14.0%と比較しても高い割合であった。</p> <p>⇒このことから、小学校ほどではないものの、休業期間の長期化により、在宅生活のストレスや生活リズムの乱れが生徒の心身の状況に影響を与えていると推測される。</p> <p>○特に中学校は例年2学期以降の新規不登校数が増加する傾向が見られるため、今後の欠席状況の把握と初期対応を徹底していく必要がある。</p>